



Title	稻垣足穂『一千一秒物語』の本文の変遷
Author(s)	白崎, 真亜子
Citation	阪大近代文学研究. 2017, 14-15, p. 30-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67757
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

稻垣足穂『一千一秒物語』の本文の変遷

白崎 真亜子

はじめに

稻垣足穂は自分の作品に何度も改訂を行った作家である。そのため、一つの作品に複数のヴァリアントが存在する。『一千一秒物語』にも初版の刊行以後、何度も手が加えられ改訂が行われている。その改訂が行われた年代や収録された作品集、タイトルや収録数の変化などは後述する先学による様々な作品改題等によつて示されてきた。しかし、改訂による作品内容の変化などの詳細な分析や、それによる読みの変化など具体的な研究は未だ不足している部分がある。本稿では改めて本文異同の流れを追いどのような改訂が行われてきたのか、『一千一秒物語』の本文の変遷を明らかにする。

一、先行研究と問題の所在

これまでに示されてきた解題、作品年譜、作品収録の推移は次のとおりである。『稻垣足穂大全I』⁽¹⁾では作品年譜と

して作品収録と刊行順が次のように示された。

- 金星堂刊『一千一秒物語』初版
↓雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
- ↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
- ↓『現代日本文学全集85 大正小説集』収録「一千一秒物語」
- ↓『日本現代文学全集67新感覺派文学集』
- ↓『稻垣足穂全集（ユリイカ）』収録「一千一秒物語」
- ↓作家社刊『一千一秒物語』

このとき『稻垣足穂大全I』収録が最終稿とされた。

次に『稻垣足穂全集』⁽²⁾の解題では以下の順で改訂されたと示された。

金星堂刊『一千一秒物語』初版

→雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」

→『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」

→『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」

改訂の内容は、『児童文學』掲載時に「新版一千一秒物語」と改題され小話も改訂されたとある。次いで『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「A CHILDREN'S SONG」と「電燈の下をへんなものが通つた話」の小話二篇が追加されたという。そして『稻垣足穂大全I』で更に改訂されたと指摘された。加えて、作家社刊行の『一千一秒物語』覆刻版や英訳版『One Thousand and One Seconds Stories』についての記述もみられる。

次いで、『足穂拾遺物語』⁽³⁾では以下のように改訂されたと示された。

金星堂刊『一千一秒物語』初版
→雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
→雑誌『くいーん』掲載「一千一秒物語」
→『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」

→『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」

『足穂拾遺物語』の「一千一秒物語」解題は高橋信行により執筆された。この解題では、改訂の流れに加えて作品の生成推移も示されている。改訂の内容としては、『児童文學』掲載時の「新版一千一秒物語」と『くいーん』掲載時の「一千一秒物語」は金星堂刊行版から一部の小話だけが改訂され掲載されたことで小話の収録数が異なっている」と、『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「A CHILDREN'S SONG」と「電燈の下をへんなものが通つた話」の小話二篇が追加されたことで金星堂刊行時から収録数と収録順序が変化していることが指摘された。

一方で、高橋康雄⁽⁴⁾は神奈川近代文学館所収の草稿二種と金星堂初版・『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」・『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」・『現代日本文学全集85大正小説集』収録「一千一秒物語」・ユリイカ刊『稻垣足穂全集』収録「一千一秒物語」・作家社刊『一千一秒物語』・『日本現代文学全集67新感覺派文学集』収録「一千一秒物語」・『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」・新潮文庫（昭和四四年刊）『一千一秒物語』・木馬舎刊『一千一秒物語』・透土社刊『一篇一冊双書一千一秒物語』の十一テキストを取り上げ、「一千一秒物語」が収録された全集や作品集においてどれひとつ同一のものはないという見方を提示した。金星堂刊の初版から雑誌『児童文學』掲載の「新版一千一秒物語」の間で四十七篇の改訂がなされた」と、『現

代小説大系44モダニズム2』収録時に二篇増えて全七〇篇になつたこと、草稿から初版では「お月様」が「お月さん」に変わり、小話「黒い箱」に出てくる「シャーロック・ホームズ」が「ハイド氏」となつていてことを指摘した。両方とも金星堂版以降には草稿と同様に「お月様」、「シャーロック・ホームズ」となることも指摘した。また、それぞれの収録の際に細かな字句の改変がみられるため、定本としては足穂が生前最後の手を加えたであろう、昭和四十四年刊行の新潮文庫版を指定すべきだと述べている。

このように、これまで示されてきた解題ではその内容にばらつきがあり、調査範囲も不明確である。加えて、改訂の時点は示しながらも、改訂の内容については収録数や収録順序、語句についてのみで、具体的に小話のどの部分が改訂され、それにより小話がどのように変化したのかは示されていない。

また、石津尚美⁽³⁾は足穂の作品改訂の特徴として、修飾語の削減を指摘している。加えて、「過去のものほど、余分の飾りや、比喩が多くて『まわりくどさ』を自ら楽しんでいるようなところが見受けられる」とし、だがそれも「年がたつにつれ、だんだんと簡潔を好むようになつていく」と述べている。しかし、石津は足穂の改訂が「すべてがこうだったか」というとそうではない」とし、論の中で改稿作の代表として「黄漠奇聞」を取り上げている。この論考は、足穂の作品全体に纏わる改訂の特徴を指摘するとともに、各作品それぞ

れにおける「改訂の特徴」が存在することを示唆している。したがつて、『一千一秒物語』独自の改訂の特徴を見していくことが必要だろう。

以上のように、先行研究において、改訂の大まかな流れは示されているが、具体的な指摘には欠けている。また、高橋康雄論にあるように、字句の改変のために『一千一秒物語』のテキストすべてが異なるとしても、足穂がそれらの改変にどこまで関わっていたか判断できない。そこで、先行研究で言及されているテキストに加え、現在管見の限り『一千一秒物語』が収録されているテキストを取り上げ、収録内容、収録数、収録順、タイトル、小話の内容、表記について見ていく。

二、調査文献

取り上げるテキストは次の通りである。(『』は単行本タイトル、「 」は収録作品タイトル、□は本文を参照した文献を示す。)

- ① 金星堂『一千一秒物語』(一九一三)〈初版〉
- ② 金星堂『一千一秒物語』(一九一六)〈第六版〉
- ③ 鳩居書房『児童文學』「新版一千一秒物語」(一九三五・十二・一九三六・四／八)
- ④ くいーん社『くいーん』第一巻第四号「一千一秒物

- 語」（一九四七・十）【青土社『足穂拾遺物語』（一一〇）
 ○八）参照】⁽⁶⁾
- ⑤河出書房『現代小説大系44モダニズム2』「一千一秒
 物語」（一九五〇）
- ⑥河出書房『現代小説大系46モダニズム』「一千一秒物
 語」（一九五六）
- ⑦筑摩書房『現代日本文学全集85大正小説集』「一千一
 秒物語」（一九五七）
- ⑧書肆ユリイカ『稻垣足穂全集1』「一千一秒物語」（一
 九五八）
- ⑨作家社『一千一秒物語』（一九六四）
- ⑩講談社『日本現代文学全集67新感覺派文学集』「一千
 一秒物語」（一九六八）
- ⑪現代思潮社『稻垣足穂大全I』「一千一秒物語」（一九
 六九）
- ⑫新潮社・新潮文庫『一千一秒物語』「一千一秒物語」
 （一九六九）
- ⑬新潮社『稻垣足穂作品集 Works of Taruho』「一千一
 秒物語」（一九七〇）
- ⑭早川書房『世界SF全集34日本のSF（短編集）古典篇』
 「一千一秒物語（抄）」（一九七六）
- ⑮沖積舎『稻垣足穂作品集』「一千一秒物語」（一九八
 四）
- ⑯河出書房『ヰタ・マキニカリスI』「一千一秒物語」
 （一九八六）
- ⑰木馬舎『一千一秒物語』
 A 「一千一秒物語」
 B 「異稿一千一秒物語」（一九八七）
- ⑱透士社『イナガキ・タルホ一篇一冊物語双書』「一千一
 秒物語」（一九九〇）
- ⑲筑摩書房・ちくま日本文学全集015『稻垣足穂』（一九
 九一）
- ⑳河出書房『新文芸読本 稲垣足穂』「一千一秒物語
 （抄）」（一九九三）
- ㉑河出書房『ヰタ・マキニカリスI』「一千一秒物語」
 〔新装版〕（一九九八）
- ㉒筑摩書房『稻垣足穂全集1』「一千一秒物語」（一一〇〇
 ○）
- ㉓ゆまに書房『編年体大正文学全集 第十二卷 大正十
 二年』「一千一秒物語」（一一〇〇三）
- ㉔新潮社・新潮文庫『一千一秒物語』「一千一秒物語」
 （一一〇〇四）
- ㉕筑摩書房『稻垣足穂コレクション1 一千一秒物語』
 「一千一秒物語」（一一〇〇五）
- ㉖沖積舎『覆刻版一千一秒物語』（一一〇〇七）
- ㉗筑摩書房・ちくま日本文学016『稻垣足穂』「一千一秒

物語」(二〇〇八)

⑧筑摩書房『日本幻想文学大全 幻妖の水脈』「一千一秒物語（抄）」(二〇一三)

以上二十八文献を調査する。なお、¹⁷木馬舎刊行の『一千一秒物語』はそれぞれA「一千一秒物語」とB「異稿一千一秒物語」の二種類が収録されている。これ以降、言及するときはそれぞれを「¹⁷木馬舎A」、「¹⁷木馬舎B」と表記する。本文の引用はそれぞれの系統の中心となるテキストを使用し、「／」は改行を示す。表記はそのまま本文テキストに準じる。

二、異同による分類

分類のポイントを中心表紙、前付、引用、序詞、終詞、小話など作品全体の収録内容に注目すれば次のように分類することができる。

- ↓金星堂刊行『一千一秒物語』初版
- ↓金星堂刊行『一千一秒物語』第六版
- ↓『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
- ↓『くいーん』掲載「一千一秒物語」
- ↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
- ↓『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」
- ↓『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」

これは『足穂拾遺物語』解題で高橋が示したものと一致する。第六版は、小話に注目してみると、初版の内容と同一ですべての小話が収録されています。調査文献の分類を【表1】に、各系統ごとの小話の収録数、収録順、タイトルの変更を【表2】に表す。

四、系統ごとの特徴

(i) 初版系統

①金星堂刊『一千一秒物語』初版の構成は本文以外に、中表紙のタイトル下部に「Modern Fairly Tales」という記述があり、次に佐藤春夫による「INTRODUCTION」として

調査内容を〈1〉小話の収録数〈2〉小話の収録順序〈3〉小話のタイトル〈4〉小話内の改訂と小話に関する観点に注目すると本文テキストは次のように分類できる。

金星堂刊行『一千一秒物語』初版

↓『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」

↓『くいーん』掲載「一千一秒物語」

↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」

↓『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」

「童話の天文学者——／アスファルト街上の児童心理学者——／ゼンマイ仕掛けバネ仕掛けの機械學者——／奇異なる官能的レツテルの蒐集家——／さうして、アラビヤンナイトの荒唐無稽をまんまと一本のシガレットのなかに 封じ込めた

のだぜ？／誰が？／イナガキ・タルホがさ！」と足穂について書かれている。次いで、トリスタン・ツアラーの引用「芸術とはココア色の遊戯である」という文言、序詞「さあ御食事がすみましたら／こちらの方へ集つて下さい／いろんな煙草が取り揃へてあります／目録によつてどれでもお好み次第に……」があり、小話の目次である「CONTENTS」、前付の文句「星しげき今宵、コメット・タルホは／敬愛する紳士淑女諸君に向つて／かくの如き數々の小話を語らうとする」があつて小話が始まつる。終詞は「さよなら、よき夢をごらんなさい！／私の紳士淑女諸君！／又、明晚御目にかゝりませう」とある。前付の文句と終詞では「紳士淑女諸君」という聞き手の存在が描かれており、前付の文句であつた「コメット・タルホ」という語り手は終詞における「私」だと考えられる。このように作品における語り手と想定される聞き手が小話の前に枠組みとして存在し、それを踏まえてそれぞれの小話が展開している。

巻末には「豫告／此の魔術的作家は更に香り高いエジプトの葉と斬新的なインド花火の多量とを仕入れて一層精鍊趣向を凝した巻煙草を製造して最近売出さうとしてゐる。何物が飛

び出して諸君を驚かせるか一本取つてマツチを吸つた上の事である。」という次作の予告がある。収録されている小話は金星堂初版では全部で六十八篇である。

この①と全く同一のものとして⑨作家社刊行の『一千一秒物語』、㉖沖積舎刊行の『一千一秒物語』がある。両者は①金星堂版の復刻版であり、本文だけではなくその他の体裁もすべて同じである。今回使用した①には表紙カバーがなかつたが、㉖沖積舎刊行の復刻版によつて表紙カバーに付された「勧誘！！！／ココア色の芸術の葉を最も手軽なものにいやうとペーパーに巻いてみたのがこの新しい煙草である／どんな味がするか？　ためしに一本吸つて見給へ！」という文章が確認できた。カバーの文言はトリスタン・ツアラーの引用や序詞の文言を想起させるような「ココア色の芸術」や「シガレット」などの語句が見られる。

⑰木馬舎A『一千一秒物語』は①金星堂版の本文、トリスタン・ツアラーの引用、前付の文言は掲載されているが、佐藤春夫の「INTRODUCTION」はなく、本文の表記は、仮名が新かなに改められている。表記において初版とは異なるテキストである。

⑱透土社『イナガキ・タルホ一篇一冊物語双書 一千一秒物語』はトリスタン・ツアラーの引用、前付きの文言、「CONTENTS」はあるが佐藤春夫の「INTRODUCTION」はない。また、この本独自の編集として「A GLIMPSE」と

題された「ある夜見えそめいでいたおどろくべきもの　しか
も次の瞬間にはシルウエットになつてそこに行違つていた群
衆でしかなかつた」という引用文や小話「ポケツトの中の
月」「何うして彼は煙草を吸うやうになつたか」「何うして彼
は酔ひよりさめたか?」「霧に欺まされた話」「突き飛ばされ
た話」「友達がお月さんに変つた話」を部分引用したカラー
ページ等が挿入されている。小話の本文は金星堂刊行の初版
と同じであるが、金星堂版ではルビが付されていない漢字に
ルビが付されているなど表記の面で異なつている。ルビに関
しては、「油繪」に「あぶらえ」のように漢字そのままの読
み方が付されているものと、「煙草」に「シガレット」のよ
うに付されているものがある。

(23)『編年体大正文学全集』収録の「一千一秒物語」はトリ
スタン・ヴァラーの引用、序詞、終詞はあるものの佐藤春夫
の「INTRODUCTION」と「CONTENTS」は見られない。
小話の内容は①金星堂版と同じだが、表記において例えば
「歸」が「帰」のように新字体に改められている。

(ii) 金星堂第六版

②金星堂第六版では①金星堂初版と比べて小話本文の内容
に変更は見られなかった。一方で、中表紙の絵が変更され、
タイトル下部の言葉が初版は「Modern Fairy Tales」であ
ったのが、第六版では「Moonshine Tales」と変更された。

「現代的な御伽噺」から「月光の物語」へと作品を示すフレ
ーズが変更された。「現代的な」という新しさを冠していた
のが、「月光」である月、ひいては天体に関するものを冠と
して付す点に、足穂の天体への傾倒が感じられる。また、
「新しさ」よりも本作の主軸に「月」を中心に据える意図が
生まれたのではないか。しかし、この変更が足穂自身による
ものか出版元の金星堂によるものかは判断できない。中表紙
のイラストが変更されたように、佐藤春夫の
「INTRODUCTION」のページも初版とはデザインが異な
り、トリスタン・ヴァラーの引用文の入る位置などページの
割り付けにおいても異なつている。巻末には稻垣足穂『星を
売る店』ロバートソン著、麻生義訳の『独逸文学史』、ラフ
カデオン著、今東光訳の『文學入門』の広告が入っている。
①金星堂初版との大きな違いとしては、序詞と終詞の削除
が挙げられる。小話群の前後に作品の始まりと終わりをつく
つていたのが削除されたことでその枠組みがなくなつてしま
つていて。

(iii) 児童文學版

③『児童文學』版では「新版一千一秒物語」と題され金星
堂版六十八篇から四十七篇が掲載された。そのすべてが改訂
され初版とは異なる小話の内容となつており、タイトルにお
いても表記などの細かな改変もあれば、「停電の原因」から

「黄昏奇談」など大きく変化したものもある。」の掲載時、序詞等は省かれた。小話の内容やタイトル共に、(1)金星堂版では「お月さん」であったのが「お月様」に直された。小話の掲載順も金星堂版単行本に収録されている順番とは異なり、【表2】において太枠で示したように、(3)『児童文學』掲載時のタイトルで「月のサーカス」から「散歩前」までの七篇の順序がばらばらになっている。

この「新版一千一秒物語」は雑誌③『児童文學』掲載時の目次では童話として載つてある。また、『日本児童文学大辞典 第一巻』において「童話風に改めた」二行から一〇行ほどの掌篇」(2)と説明されている。(1)金星堂初版と比較して、小話一篇における分量は大幅に削られている。

(iv) くーん版

I 『くーん』版では掲載された九篇のうち「a puzzle」「見て来たやうな」と云ふ人」「A HOLD-UP」「THE WEDDING CEREMONY」「月の客人」「十星が三つ出来た話」の六篇が金星堂版からの改訂である。」のほか「MURMUR」か「a puzzle」のタイトルが改変される。「THERE'S NOTHING」「赤鉛筆の由来」の二篇は初版から(3)『児童文學』での改変に次いで改訂されている。そして「A CHILDREN'S SONG」一篇がこの時新しく追加された。また、初版で見られた序詞や文言はなく、序詞の代わりと思わ

れる「おても夕餉果てし方々よ。いの共に集ひて タルホ氏がすへむうまき煙草を召されかし」という文言とフランス語で「Cet Astro-Magicien la confirmait des cigarettes avec Fantaisie de La Nuits-Arabeque nouveaux.」⁽²⁾ いふ文が付されてい。④『くーん』版は(1)金星堂版、(3)『児童文學』版で句読点が見られなかつた本文中に句読点が付されている。これまで一マス空けることで語句や文章の区切りを表していたのが句読点を付することで賄われている。しかし、まつたく一マス空けがされなくなつたわけではなく、例えば「見て來たやうなことを云ふ人」という小話の中にある会話文中では読点が使用されずに一マス空けて区切られている。このように一マス空けと句読点が混用されている。

(v) 現代小説大系44統

⑤『現代小説大系44モダニズム2』版では、本作収録において初版時的小話六十八篇にこの時新たに「電燈の下を変なものが通つた話」と④『くーん』版で加わった「A CHILDREN'S SONG」の一篇が追加された全七十篇の小話と序詞、終詞、「CONTENTS」で「一千一秒物語」が構成される。

本文の内容はこれまでの改訂に加えて新しく直されている。小話の順序は金星堂版に則つており、(3)『児童文學』掲載時から最初に戻つた印象である。⑥『現代小説大系46モダ

ニズム』は⑤『現代小説大系44モダニズム2』の改版である。

⑦『現代日本文学全集85大正小説集』版の収録内容は『現代小説大系44モダニズム2』収録時と同じく、序詞、小話七十篇、終詞、「CONTENTS」であり、本文内容も同一であった。しかし、⑤『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「ヅカ／＼」「ハタ／＼」というように表記されたものが「ヅカヅカ」「ハタハタ」のように書き換えられた。

⑧ユリイカ刊『稻垣足穂全集』では序詞、小話七十篇、終詞で構成される。序詞では「取りそろへてあります」と表記されていたのが「取り揃へてあります」と漢字表記され、最後「どちらなりとおためしください。」に句点が付されている。「ハタ／＼」が「ハタハタ」、「木々」が「木木」と直され、漢字はすべて新字体に改められており、一部の漢字にルビが付されている。⑤『現代小説大系44モダニズム2』で改行させていたところが改行されずに一マス空けで文章が連続している。

⑩『日本現代文学全集67新感覚派文学集』版は⑤『現代小説大系44モダニズム2』版と内容は同一である。しかし、「ハタ／＼」が「ハタハタ」、「木々」が「木木」などの表記、「突當りの大鏡」が「突當り大鏡」と誤りが確認できた。また、⑤『現代小説大系44モダニズム2』では改行させていたところが改行されずに、一マス空けのみで文章が連続している。

る。

(vi) 大全版系統

⑪『稻垣足穂大全I』ではこれまで歴史的仮名遣いで表記されていたものが現代仮名遣いに直されている。⑤『現代小説大系44モダニズム2』からの違いはこの仮名遣いの表記によるところが大きく、内容に関わる改訂はわずかであった。

⑫『稻垣足穂大全I』版では序詞と小話七十篇と終詞で構成され「CONTENTS」はなくなつた。序詞においては「皆さん」「取り揃えてあります」のように漢字表記され、小話中でも「聞いていると」「進んでいく」などこれまで平仮名で表記されていたものが漢字表記に変わつている。内容面では小話「星をひろつた話」中の「光つているだけだつたら」が「光つているだけだつたので」になつたり、小話「投石事件」において「ぼく」が逃げて行くところが「リンゴ畠」だったのが「花畠」になつたりなどの改変が見られた。ストーリーラインそのものを変化させる改訂ではないが、語句レベルで細かな改訂を行い書き換えていることがわかる。

⑬『稻垣足穂作品集 Works of Taruho』は⑪『稻垣足穂大全I』と収録内容、表記、ルビにおいても一致している。⑯『稻垣足穂作品集』は⑪『稻垣足穂大全I』と収録内容として序詞、小話七十篇、終詞ともに同じである。表記も一マス空けの位置、改行の位置、ルビの振り方も一致している。

⑯『ヰタ・マキニカリス I』は最終稿である⑪『稻垣足穂大全 I』のテキストに準じたと記載されている。序詞、小話七十篇、終詞における表記やルビとともに⑪『稻垣足穂大全 I』と一致している。㉐『ヰタ・マキニカリス I』は新装版であり、⑯『ヰタ・マキニカリス I』と同一である。

⑰木馬舎 B は巻末付録として金星堂版の異稿として最終稿とされる⑪『稻垣足穂大全 I』版を収録している。㉑『稻垣足穂全集 I』は底本として⑪『稻垣足穂大全 I』を使用している。そのため、収録内容も序詞、小話七十篇、終詞と『稻垣足穂大全 I』版と一致し、表記の面においても、一マス空けの位置、改行の位置、ルビの振り方も一致している。

㉒『新文芸読本 稲垣足穂』には「一千一秒物語（抄）」として「月から出た人」「赤鉛筆の由来」「お月様が三角になつた話」の三篇が掲載されている。小話の内容、表記、ルビの振り方も『稻垣足穂大全 I』版と一致している。

㉓『世界 SF 全集 34 日本の SF（短編集）古典篇』は「一千一秒物語（抄）」として収録されている。「一千一秒物語」のうち序詞、「月から出た人」から「突き飛ばされた話」まで順に十八篇が掲載されている。小話内容は『稻垣足穂大全 I』版と同一ながら、「月から出た人」と「投石事件」の二篇の小話に一部句読点が付されている。④『くいーん』版以降のテキストで句読点が付されているものではなく、また小話の中の一マス空けの所すべてに句読点が付されているわけでもな

いため、その意図は不明である。底本等の記載は見られず、初出である金星堂刊行の初版が作品解説に記載されている。

小話の内容から⑪『稻垣足穂大全 I』以降を参考にしているのはわかる。足穂の存命中の刊行であるが足穂本人がどこまで関わっていたかは判じかねる。これまでの改訂の流れでは句読点を排してきたが、このテキストで改めて句読点を用いるようになつたとすれば、特異なテキストといえるだろう。

㉔新潮文庫は『稻垣足穂大全 I』とは内容は同一ながらルビの打ち方が異なっている。㉕ちくま文庫 015 は㉔新潮文庫のテキストを使用している。㉖ちくま文庫 016 は㉔ちくま文庫 015 の再刊行である。㉗新潮文庫は㉔新潮文庫の改版である。小話「投石事件」内の「大変な権幕でどなつた」の部分が「剣幕」と表記されており異なつている。この部分は㉔新潮文庫 015 の「稻垣足穂大全 I」のテキストでは「権幕」と表記されている。

㉘『稻垣足穂コレクション 1』は⑪『稻垣足穂大全 I』を底本としている。しかし、完全に一致はしておらず、小話「A MEMORY」において⑪『稻垣足穂大全 I』では「え？」どうしたのが」となつていて箇所が「え？」どうしたのか」となつていて。この部分は⑤『現代小説大系 44 モダニズム 2』までは「え？」どうしたのか」であつたため混同されたか出版側のミスと思われる。㉙『幻妖の水脈』は㉚『稻垣コレクション 1』を底本としている。「一千一秒物語」

より」と題され「月から出た人」「A MEMORY」「黒猫のしつぽを切った話」「ポケットの中の月」「月光密造者」「A TWILIGHT EPISODE」「コーエモリの家」「A MOONSHINE」の八篇が収録されている。²⁵『稻垣足穂コレクションI』と同様に「A MEMORY」にミスが確認できる。

足穂の死後に刊行されたものは⑪『稻垣足穂大全I』の本文に則っているが各テキストで異なっている。こうした違いは、出版社側の裁量によるものといえる。

このように、テキスト群を小話に注目して系統分けを行つたが、金星堂刊行の『一千一秒物語』初版、『現代小説大系44モダニズム2』『稻垣足穂大全I』などそれぞれを底本としながらも、収録や刊行の際に表記が異なっている。時代が下る中で歴史的仮名遣い、旧字体は現行の表記に書き直されているが、漢字や送り仮名、拗音や促音の表記にはばらつきがあり、「言う」と「云う」など同一のテキスト内でも統一がされていない。また、改行や一マス空ける位置の違い、句読点が付されているなどの違いで分けることができる。足穂は自身の作品について「句読点を排したのはドライな感じを出すため」⁽⁹⁾と振り返つており、句読点を使用せずに「マス空けや改行を意識的に用いていたと思われる。実際、金星堂版では前付の文句、終詞と一緒に小話以外にテキスト内に句読点は見られず、文や語句の区切りは一マス空白を開けることで行われている。また、終詞、小話からはその後の媒体

で読点が消えている。最終稿以降での内容の変更は見られないが、表記の点では異同がみられる。最終稿の後も一九七七年まで足穂は存命ではあつたが、こうした表記のばらつきが足穂自身の意図によるか出版社による変更かは不明なため、ここで指摘するだけにとどめる。

五、改訂の特徴

次に、小話の内容に関する改訂に注目したい。改訂の度に、一つ一つの小話はどのような変化したのだろうか。そのことを、金星堂刊行『一千一秒物語』初版→『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」→『くいいーん』掲載「一千一秒物語」→『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」→『稻垣足穂大全I』収録「一千一秒物語」の五つすべてに掲載、収録、改訂がされている小話「THERE IS NOTHING」を例に確認する。

「THERE IS NOTHING」(金星堂版)

A 氏の説によると やれば／＼たいへんな 何う云つていいか そりや素的な ピンクリするやうな事があります それてしまひ！ その事と云ふのは

「THERE'S NOTHING」(児童文學版)

A 氏の説によると それは何う云つていいか判らぬ事が

あります それでおしまひ！

「THERE'S NOTHING」〈くいーん版〉
A氏の説によると、それは／＼たいへんな、どう云つて
いゝかびっくりするやうな、ことがあります。それでお
しまひ。

「IT'S NOTHING ELSE」〈現代小説版〉

A氏の説によるとそれは／＼たいへんな どう申してよ
いか びっくりするやうなことがあります それでおし
まひ

「IT'S NOTHING ELSE」〈大全版〉

A氏の説によるとそれはそれはたいへんな どう申して
よいか びっくりするやうなことがあります それでお
しまひ

金星堂版から児童文學版では「それはそれは」というくり
かえしによる強調や「たいへんな」や「素的な」、「ビツクリ
するやうな」といった形容する描写が削除されている。また、
末尾のある種読者に小話の続きを期待させるやうな「その事
と云ふのは」という締め方が削除されている。「それでしま
ひ！」という文章の終結を示しながら、「その事と云ふの

は」と続くのは、いわば蛇足であり、言いかけただけでその
先に何もないところからも、余分な表現としての意識があつ
たのだろう。このように金星堂版から児童文學版ではより簡
潔な文章になつている。

また、タイトルが「THERE IS NOTHING」から
「THERE'S NOTHING」へと改変されている。どちらも意
味としては「そこにはないもの」となる。金星堂版から児
童文學版で小話の本文中に削除された表現があるにもかか
わらず、タイトルは短縮形にされただけだった。そのため、
タイトル自体の意味もそこに示される小話の主題も変わらな
かつたと考えられる。「何う云つていゝか判らぬ事」が「あ
る」ことが重要であり、タイトルを鑑みれば、その「何う云
つていゝか判らぬ」「A氏の説」には何も中身がないのだろ
う。

児童文學版からくいーん版では、一マス開けの代わりに句
読点が用いられている。句読点の位置と一マス開けの位置は
必ずしも一致しておらず、「THERE'S NOTHING」の場合、
句読点の位置は児童文學版よりも金星堂版と読点を打つ個所
が近い。また、児童文學版で削除された、「それはそれは」
という強調や「びっくりするやうな」という描写が復活して
いる。形容する描写が増えたことで、A氏の説がどのような
もののか勿体ぶるよう表現を連ねていく感じも同時に復
活している。

くいーん版から現代小説版では句読点が排され、文や語句の区切りには金星堂版と児童文學版と同じように一マス開けが用いられている。ここでも、句読点の位置と一マス開けの位置は必ずしも同じではない。表現においても変更がされているが、ストーリーラインを変えてしまうような大きな変更ではなく、「云う」と「申す」のように語句レベルでの改訂が見られる。

また、この改訂によつてタイトルが改変された。

「THERE'S NOTHING」が「IT'S NOTHING ELSE」に変わった。それにより意味が変わつてしまつてゐる。「そこには何もない」から「他には何もない」へと変わつてゐる。「THERE'S NOTHING」というタイトルで「そこには何もない」と示していたのに反して、「IT'S NOTHING ELSE」というタイトルで「他には何もない」と示すことは完全な「無」を示していたのに対し、唯一の「有」を示すことである。`else`という「他」の存在を否定するということとは、「他」に対する「自」存在があるということだ。小説本文の内容は改訂されても大きな変化はなかつたが、タイトルでは全く反対のことを示している。それにより、「A氏の説」の捉え方も変わつてしまふだろう。「他」を示されることで、「たいへんな」「びっくりするような」という修飾が「A氏の説」に内包される特徴となり、「A氏の説」を説明し形容する言葉になつてゐる。むしろ、これらの修飾に加えて「ど

う申してよいか（わからない）』といふ言葉以外に「A氏の説」を表す「他」の言葉はない、と解釈できる。タイトルの改変が小説の読解に影響を与えてゐる一例だらう。

現代小説版から大全版では、歴史的仮名遣いから現行の表記へと書き直されている。また、小説によつては一マス開けや改行の位置の変更、語句レベルでの表現の変更が見られる。ニュアンスの違いなど、内容に直接大きく関与しないが表現という点での細かな書き換えが多い。

石津論で指摘された足穂の作品全体に見える改訂の傾向として、修飾語の削除という傾向は見える。だが「一千一秒物語」の改訂の特徴としては、単純に修飾語の削除というだけでなく、接続詞の排除や動作主や目的語の排除もあり、文同士の繋がりがわかりづらくなつてゐる。改訂を繰り返す中で復活する表現もある。また、小説「ハーモニカを盗まれた話」のように大幅に文章を削除した改訂もある。この「ハーモニカを盗まれた話」では主人公である「俺」が「流星」とぶつかつた瞬間を思い出し「流星」が何をするつもりかを考えている部分が削除された。「俺」が部屋に戻りハーモニカが盗まれたことに気づくまでの思考部分が削除されることで、部屋に戻るに至つた経緯がわからないまま「俺」の行動のみが示される。「俺」がどのような人物かもわからなくなつた。このように小説の内容だけでなく、その主人公のキャラクターなどを大きく変化させる改訂もある。

金星堂版からの改訂では語句や言い回しを書き換えてもいいが、金星堂版の表現を削る改訂が多くみられる。しかし、その後の児童文學版、くいーん版では特定の小話のみが改訂される。現代小説版で小話すべてが収録され改訂される。その改訂の傾向としては次の四点があげられる。

- ①児童文學版の内容をもとに語句の書き換えや追加、削除がされた場合
- ②児童文學版で削られた金星堂版の表現が復活して用いられている場合
- ③くいーん版の内容をもとに語句の書き換えや追加、削除がされている場合
- ④くいーん版で削られた金星堂版の表現が復活して用いられている場合

つまり、改訂が進むにつれて新しい表現に変えている場合と、金星堂版の表現に戻している場合とがある。初版の單行本から次の改訂では雑誌媒体、しかも『児童文學』と『くいーん』という一般的な文学雑誌への掲載ではなかつたといふことも改訂と関係しているのかもしれない。

更に、金星堂版からの改訂によって、冒頭に「夜・夕方・真夜中」を設定する言葉が挿入された。金星堂版の時点で六十八篇あるほとんどのストーリーの舞台が夜であったが、改

訂によつてよりその設定が統一され、大全版では途中で加わった二編も含めた七十篇中六十三篇のストーリーが夜、夕方、真夜中という時間軸の中で起つる。また、単純に「夜」ではなく、「或夜」「或晩」というように曖昧で抽象的な時間設定がされている。大全版では七十篇中三十篇がこのようないくつかの設定の中で話が始まる。

また、小話「ある晩倉庫のかげで聞いた話」では金星堂版では主人公で語り手と思われる人物は「僕」だったのが現代小説版では「自分」と改変される。改めてテキストを見ていくと、「僕」から「自分」に変えられているものや、人々「自分」が出てくる小話であつても動作主として「自分」という言葉が付け加えられているものもある。それと共に、『一千一秒物語』内では金星堂版から大全版まで変わらず「僕」、「俺」、「私」などの「自分」以外の一人称の小話もある。「自分」以外にも小話における主人公や語り手が存在する。小話の多くは一人称視点の語りである。しかし、他の一人称表記と比べて小話内の一人称の内訳は「自分」…三十四例、「俺」…「ハーモニカを盗まれた話」一例、「わたし」…「A MEMORY」「ニューヨークから帰ってきた人の話」「どうして彼は喫煙家になつたか」三例、「ぼく」…「投石事件」「A MOON SHINE」二例、無表記…「○」例、会話…「A PUZZLE」一例、三人称…「THE WEDDING CEREMONY」など九例であり、約半分が「自分」で表され、次いで多いのが無表

記の一人称語りである。

一方で、改訂は小話だけでなく、序詞や終詞、前付や中表紙の文言にもみられる。金星堂版では前付の文句で「コメット・タルホ」という存在が「語る」という体裁で本作が始まることから小話が展開していく。小話同士に関連性がないとしても、語り手である「コメット・タルホ」という存在が小話同士を結び付け、「コメット・タルホ」に語られる小話であり、小話の語り手や主人公を「コメット・タルホ」と置き換えて読むことができたのではないか。初版では六十八の小話を内容や作品テーマなど関係なく繋ぐ「コメット・タルホ」という語り手がいてその存在によって小話群は結びつけられていたが、この文言が削除され収録されなくなることで、金星堂版以降の本文ではそうした作品を貫く存在はなく、小話同士の内容にも明確な連続性はないため、七十の小話はそれらが単独で存在するものとしてあるのではないか。しかし、先に述べたように改訂により小話同士に同じような言葉が付加され、個別に切り離されたというよりは関連性を持たせているようにも思える。改訂の中で小話同士に統一した改訂が加えられていることがわかる。改訂の傾向として削除されていくことが多い一方で、わざわざ付加した語句や改変した語句がある。それが小話単独のものではなく、複数の小話にまたがつていく場合、前文の文句のように作品全体にまたがつてその構成や読みに影響を与えるのではないだろうか。

山本貴光⁽¹⁾は断章同士の類似性によつて、「それらの断章が明示的なつながりを持たないにもかかわらず、読み手はその類似性によつて断章同士を連接する」と語句やモチーフで繋ぐことで小話同士に連関性が生まれることを指摘している。時間軸の設定や人称表現が統一されることによつて、読み手がそれぞれ独立していいる小話同士を関連付けてそれぞれに特徴や関連性を見出すことに繋がるのではないか。「今宵、コメット・タルホが語る」という文言が消えることで、「コメット・タルホ」が自ら語る必要はなく、それぞれの小話は「どちらなりとお試しください」と序詞にある様に、その読み方は読み手側に委ねられる。前付の文句が付されていた初版や第六版においては、「コメット・タルホが語る」とことでそれぞれが独立して存在する小話を『一千一秒物語』といふ一つの作品に統一していいたと考えられる。小話において、語り手や主人公たちの正体は明らかにされず、「自分」「僕」「俺」などの一人称や具体的な人称表記はないが、「見ていい」となどの語り手の視線や動き、思考を感じさせる表現が用いられている。そのような不明確な存在である主人公や語り手の正体として「コメット・タルホ」がいた。小話すべてが「コメット・タルホ」の語ること、御伽話の語り手として、一人の語り手という共通の存在によつてばらばらの複数の話が一つの『一千一秒物語』に集約されていたのではないか。しかし、この前付の文句は児童文學版以降削除される。

手の存在はなくなり、小話の主人公を語り手もわからないまま、「自分」という存在のまま小話を読むことになる。

このように幾度の改訂によつて『一千一秒物語』は収録されている小話だけではなく、序詞や終詞、前付の文言など作品を構成する全体に変更が加えられてきた。本稿では本文異同の流れを整理し改訂の特徴を具体的に明らかにした。今後、そのような改訂の特徴を踏まえた上で小話それぞれの読みの変化、『一千一秒物語』という作品全体を通しての改訂による変化、そして、それらがどのように受容できるのかを見ていく必要があるだろう。

注

- (1) 『稻垣足穂大全I』（一九六九・現代思潮社）卷末に松村實による作品年譜を掲載。
- (2) 『稻垣足穂全集』（一〇〇〇・筑摩書房）萩原幸子編
- (3) 『足穂拾遺物語』（一〇〇八・青土社）『くいーん』版「一千一秒物語」が収録される。高橋信行による解題・校異が示される。
- (4) 高橋康雄「稻垣足穂『一千一秒物語』草稿を読む」『神奈川近代文学館年誌第53号』（一九九六）
- (5) 石津尚美「タルホと改稿」（『紫苑』一九八六・三）
- (6) 雑誌『くいーん』を実際に確認することができないため、『足穂拾遺物語』掲載のテキストを使用する。

(7) 『日本児童文学大辞典 第一巻』大日本図書株式会社（一九九三）pp.72-73 種田和加子執筆

(8) 『足穂拾遺物語』解題より、仏文の和訳として「この天体魔術師が、新奇なアラビアの夜のファンタジーをシガレットに仕立てました」とある。

(9) 「病院の料理番人の文学」（『作家』一九六三・十一）
(10) 山本貴光「計算論的、足穂的——タルホ・エンジン仕様書——」（『ユリイカ』二〇〇六・九）

（しらさきまあこ）／本学大学院博士前期課程

【表1】

稻垣足穂大全系統		現代小説大系44	現代小説大系44	初版系統
⑪『稻垣足穂大全I』		⑤『現代小説大系44 モダニズム2』	⑥『現代小説大系46 モダニズム』	①金星堂・初版
⑫『稻垣足穂大全II』		⑦『現代日本文学全集85 大正小説』	⑧『書肆ユリイカ『稻垣足穂全集I』』	②木馬舎A
⑯『新文芸読本 稲垣足穂』		⑩『日本現代文学全集67 新感覺派文学集』	⑪『ちくま日本文学全集015 新潮文庫』	③透土社
⑰『稻垣足穂全集1』		⑫『新文芸読本 稲垣足穂』	⑫『ちくま日本文学全集016 新装版』	④沖積舎
⑱『稻垣足穂コレクション1』		⑭『世界SF全集34 日本のSF(短編集) 古典篇』	⑭『ちくま日本文学全集017 新装版』	⑤『児童文學』
⑲『幻妖の水脈』		⑮『沖積舎『稻垣足穂作品集』』	⑮『ちくま日本文学全集018 新装版』	⑥『くいーん』
		⑯『ヰタ・マキニカリスI』	⑯『ちくま日本文学全集019 新装版』	⑦『金星堂・第六版』
		⑰『木馬舎B』	⑰『ちくま日本文学全集020 新装版』	⑧『児童文學』
		⑱『新文芸読本 稲垣足穂』	⑱『ちくま日本文学全集021 新装版』	⑨『作家社』
		⑲『稻垣足穂コレクション1』	⑲『ちくま日本文学全集022 新装版』	⑩『編年体大正文学全集第十二卷』
		⑳『幻妖の水脈』	⑳『ちくま日本文学全集023 新装版』	⑪『木馬舎A』

【表2】

金星堂「一千一秒物語」 (初版)	『児童文學』「新版一千一秒物語」	『くいーん』「一千一秒物語」	河出書房『現代小説大系44モダニズム2』	現代思潮社『稻垣足穂大全第I巻』(最終稿)
表紙				
INTRODUNTION				
引用				
序詞		序詞	序詞	序詞
文句		仮文		
月から出た人	月から出た人	月から出た人	月から出た人	月から出た人
星をひろつた話	星をひろつた話	星をひろつた話	星をひろつた話	星をひろつた話
投石事件	投石事件	投石事件	投石事件	投石事件
流星と格闘した話	流星と格闘した話	流星と格闘した話	流星と格闘した話	流星と格闘した話
ハモニカを盗まれた話	ハモニカを盗まれた話	ハモニカを盗まれた話	ハモニカを盗まれた話	ハモニカを盗まれた話
或夜倉庫の蔭で聞いた話	或夜倉庫のかげで聞いた話	ある夜倉庫のかげで聞いた話	ある夜倉庫のかげで聞いた話	ある夜倉庫のかげで聞いた話
月とシガレット	月とシガレット	月とシガレット	月とシガレット	月とシガレット
お月さんと喧嘩をした話	お月様と喧嘩した話	お月様とけんかした話	お月様とけんかした話	お月様とけんかした話
思ひ出		A MEMORY	A MEMORY	
MURMUR		A PUZZLE	A PUZZLE	
	THERE'S NOTHING	A CHILDREN'S SONG	A CHILDREN'S SONG	
月光鬼語	月光鬼語	月光鬼語	月光鬼語	月光鬼語

或る晩の出来事	或る晩の出来事	ある晩の出来事	ある晩の出来事
THERE IS NOTHING	THERE'S NOTHING	IT'S NOTHING ELSE	IT'S NOTHING ELSE
SOMETHING BLACK	SOMETHING BLACK	SOMETHING BLACK	SOMETHING BLACK
黒猫の尾を切つた話	黒猫の尾を切つた話	黒猫のしつぽを切つた話	黒猫のしつぽを切つた話
突き飛ばされた話	突き飛ばされた話	突きとばされた話	突きとばされた話
はね飛ばされた話	はね飛ばされた話	はねとばされた話	はねとばされた話
押し出された話	押し出された話	押し出された話	押し出された話
キツスした人	キスした人	キスした人	キスした人
霧に欺まされた話	霧に欺された話	霧にだまされた話	霧にだまされた話
ポケツトの月	ポケツトの月	ポケツトの中の月	ポケツトの中の月
嘆いて歸つた者	嘆いて歸つた者	なげいて歸つた者	なげいて帰つた者
雨を撃ち止めた話	雨を撃ち止めた話	雨を射ち止めた話	雨を射ち止めた話
月光密造者	月光密造者	月光密造者	月光密造者
彗星を取りに行つた話	彗星を取りに行つた話	彗星を獲りに行つた話	彗星を獲りに行つた話
星を食べた話	星を食べた話	星をたべた話	星を食べた話
AN AFAIRE OF THE CONCERT	AN AFAIRE OF CONCERT	AN INCIDENT IN THE CONCERT	AN INCIDENT IN THE CONCERT
TOUR DE CAT NOIR	TOUR DE CAT NOIR	TOUR DU CHAT NOIR	TOUR DU CHAT-NOIR
星か？ 花火か？	星？ 花火？	星？ 花火？	星？ 花火？
自分を落してしまつた話	自分を落してしまつた話	ガス燈とつかみ合ひをした話	ガス燈とつかみ合いをした話

瓦斯燈とつかみ合ひをした話		自分を落してしまつた話	自分を落してしまつた話
星でパンをこしらへた話	星でパンを拵へた話	星でパンをこしらへた話	星でパンをこしらえた話
星に襲はれた話	星に襲はれた話	星におそはれた話	星におそわれた話
果して月へ行けたか?	月へ行けたか?	はたして月へ行けたか?	はたして月へ行けたか?
水道へ突き落された話	水道へ突き落された話	水道へ突き落された話	水道へ突き落された話
月を上げる人	月を上げる人	月あげる人	月あげる人
MAN OF THE MOON	MAN OF THE MOON	THE MOONMAN	THE MOONMAN
コノアの悪戯	コノアの悪戯	ココアのいたずら	ココアのいたずら
月のサークス	月のサークス	電燈の下をへんなものが通つた話	電燈の下をへんなものが通つた話
MOON RIDERS	蝙蝠の家	THE MOONRIDERS	THE MOONRIDERS
煙突から投げいまれた話	THE MOON RIDERS	煙突から投げいまれた話	煙突から投げいまれた話
停電の原因	煙突から投げ込まれた話	A TWILIGHT EPISODE	A TWILIGHT EPISODE
黒猫を撃ち落した話	黄昏奇談	黒猫を射ち落した話	黒猫を射ち落した話
蝙蝠の家	黒猫を撃ち落した話	コーモリの家	コーモリの家
散歩前的小話	散歩前	散歩前	散歩前
THE BLACK COMET CLUB		THE BLACK COMET CLUB	THE BLACK COMET CLUB

友達がお月さんに變つた話		友だちがお月様に變つた話
見て来たやうなことを云ふ人	見て来たやうなことを云ふ人	見てきたやうなことを云う人
フクロトーンボ	AN INCIDENT AT A STREET-CORNER	AN INCIDENT AT A STREET-CORNER
辻強盗	A HOLD-UP	A HOLD- UP
銀河からの手紙	銀河からの手紙	銀河からの手紙
THE WEDDING	THE WEDDING CEREMONY	THE WEDDING CEREMONY
自分によく似た人	自分によく似た人	自分によく似た人
真夜中の訪問者	真夜中の訪問者	真夜中の訪問者
ニューヨークから歸つて	ニュウヨークから歸つて	ニュウヨークから帰つて
来た人の話	てきた人の話	てきた人の話
月の客人	月の客人	月の客人
何うして彼は醉よりさめたか?	どうして醉より醒めたか?	どうして酔いよりさめたか?
THE GIANT-BIRD	A GIANT BIRD	A ROC ON A PAVEMENT
黒い箱	黒い箱	黒い箱
月夜のプロジェクト	月夜のプロジェクト	月夜のプロジェクト
赤鉛筆の由来	赤エンピツの由来	赤鉛筆の由来
土星が三つ出来た話	土星が三つ出来た話	土星が三つ出来た話

			お月さんを食べた話	お月様をたべた話	お月様をたべた話
お月さんが三角になつた話			お月様が三角になつた話	お月様が三角になつた話	お月様が三角になつた話
星と無頼漢			星と無頼漢	星と無頼漢	星と無頼漢
果してビール瓶の中にホー キ星が入つてゐたか?			はたしてビールびんの 中に篝星がはいつてゐ たか?	はたしてビールびんの 中に篝星がはいつてゐ たか?	はたしてビールびんの 中に篝星がはいつてゐ たか?
何うして彼は煙草を吸ふ やうになつたか?			どうして彼は喫煙家に なつたか?	どうして彼は喫煙家に なつたか?	どうして彼は喫煙家に なつたか?
MOON SHINE			A MOONSHINE	A MOONSHINE	A MOONSHINE
終詞	終詞	終詞	終詞	終詞	終詞
予告					